

学校法人 村上学園

村上学園 MURAKAMIGAKUEN

二〇二一年 令和三年 二月 一日 発行
発行元(発行責任者)
学校法人村上学園 法人事務局
参事(広報担当) 寺川 誠
東大阪市西堤学園町三十一
電話 〇六六七八一―二四四四
URL <https://www.murakamigakuen.jp/>

東大阪大学附属幼稚園

運動会を開催しました (10/16)

東大阪大学附属幼稚園では、令和三年十月十六日(土)、当初予定より一週間遅らせて運動会を開催しました。全国的に感染者数も減少傾向に転じ、大阪府に発出されていた緊急事態宣言も解除されたとはいえ、まだまだ感染者が出ている状況には変わりがあります。感染防止対策を徹底しながらの開催にこぎつけました。密になることを避ける意味で、家族三名までの参観にしたり、観覧席をクラス別に分けるとともに枠を作り枠には一名のみ入ること

隣との間隔をあけるなど、またマスク着用をお願いすることも当然の措置として取りました。プログラムでは、午前から昼食を挟んで午後からも演技を行いました。今年度は、演技を精選、一〇の演技や競技に絞り込み、午前中で終了できるようにしました。参観者には物足りなさが残ったかもわかりませんが、その分、園児たちは一つ一つの演技に力を入れ、一生懸命に真剣に取り組んでいたと感じました。

当日は、抜けるような青空が広がり、日向では汗ばむほどの天気でしたが、陰に入ると風が冷気を運んできてくれました。とても涼しく気持ちの良い天気でした。



クラス対抗リレー (年長組)

年長組によるクラス対抗リレーは、コ



秋晴れの天候に恵まれた運動会日和。入場行進に始まる開会式の後、「キッズ体操」や「かけっこ」等、一〇の演技や競技に取り組みました。これまでより精選したプログラムにそって演技や競技を行いました。

また、団体演技「東京オリンピック2020〜素晴らしい未来を永遠に〜」は、今夏開催された東京オリンピック・パラリンピ



団体演技 (年長組)
東京オリンピック2020
～素晴らしい未来を永遠に～



シンボルの鹿(R3.10.22撮影)

☆紙面案内

- 1面：令和3年度運動会を開催しました(10/16)
オープンスクール開催
- 2面：伊勢本街道延ちゃん道中記
- 3面：ICT教育
(東大阪大学柏原高等学校)
あんしんのたわごと
- 4面：Murakamigakuen Art Gallery
編集後記(日々雑感)

ク2020をテーマに五輪のマークを形どったり、聖火点灯を再現したり、ピクトグラムを取り入れたりと多彩な演技の中に、体操を取り入れるなど創意と工夫を凝らしたものでした。演技している年長組の皆さんは、真剣にかいっぱい上手に取り組んでいました。素晴らしい



ピクトグラムの演技



エイサー琉球の風(年中組)



い演技で、保護者の方々も感心して参観されていたと思います。演技終了時には、会場から大きな拍手がわきました。
年少組は『ピースオブケーキ』、年少組は可愛いトムとシエリーの耳をつけて踊りました。また、年中組は、「エイサー琉球の風」を演じました。
新型コロナウイルスが猛威を振るっている中、感動を呼ぶ運動会だったと思います。



ピースオブケーキ (年少組)



ドリームコースフェスタ体験授業の様子

ドリームコースフェスタ開催(10/3)

オープンスクール開催(10/2)

東大阪大学敬愛高等学校

東大阪大学柏原高等学校

多くの方に参加いただき、ありがとうございました。

東大阪大学柏原高等学校では、一〇月二日(土)、第二回目のオープンスクールを開催しました。「だんじり同好会」による鉦と太鼓のだんじり囃しをオープニングに、学校生活について丁寧に説明を行いました。その後、クラブ・コース体験、参観などを行いました。多数の方のご参加、ありがとうございました。



伊勢本街道延ちゃん道中記(その2)

近鉄奈良駅～JR巻向駅(上街道)18km

「伊勢本街道延ちゃん道中記」の2回目です。今回は、自宅のある東大阪市川田から近鉄奈良駅までの行程でありましたが、今回は、前回の到着地近鉄奈良駅からの出発となります。たどる道は、古代より上ツ道と呼ばれ、6世紀後半から7世紀にかけて整備された官道の一つです。現在の奈良市から桜井市を直線で結んでいる計画的に作られた直線道路です。平安時代以降は官道としてはたたらはなくなり、代わって仏教信仰の広まりとともに寺院への参拝道として賑わうようになりました。近世にはいると、「上街道」と呼ばれ、奈良、橿本、丹波市、三輪、桜井といった町を結び幹線道路となり、奈良から長谷寺、室生寺、三輪明神等への参拝道としても賑わいました。また、大坂、京都、奈良方面から伊勢方面を結ぶ「伊勢街道」の一つにもなっていました。

伊勢本街道ウォーク ～奈良街道・上街道・初瀬街道～ 作：金治延幸参与

さて、今回はどんな道中になるのやら……。

◎近鉄奈良駅 ↓ JR巻向駅 (2020.1.25) 18km

近鉄奈良駅に降り立つ。今は地下駅になっている。五〇年ほど前までは地上駅。当時、油坂駅を出ると奈良駅までの数百メートル、登大路を電車が走っていたのを覚えている。地下駅化したに伴い、油坂の駅がなくなり、大和西大寺と奈良間の途中に新大宮駅が開業した。近年では、JRの高架化も完了し、奈良の街も様変わりしている。



さて、階段を使い駅を出ると、行基像の噴水が目に入る。それを右手に見ながら、右に折れると東向商店街。通りを南下する。奈良漬の専門店があり、香りが漂っている。さすが奈良、三条通を横切り、餅飯殿通、下御門通から、国宝であり世界文化遺産にも登録されている元興寺(極楽堂・禅室)や昔の風情を残す奈良町(当時、元興寺の境内であったと言われている)を過ぎて京終(都の端を意味する「きょうはつ」)へ。



昔のたたずまいを残している奈良町(上街道)

そこから、JR桜井線(愛称万葉まほろば線)に沿っていわゆる「上街道(かみかいどう)」が残っている。東方の山系(春日・高円山等)の山裾を上街道と同じく、奈良から桜井に向けて伸びている山辺の道の方が、上街道より有名だが……上街道は、ウォーキングに向いている歩きやすい道だ。アップダウンもほとんどないし、交通量も少ない。街道筋には、あちらこちらに纏向遺跡や古墳等の史跡が点在

し、寺社仏閣も多く見られる。また、街道の風情が残っているところや、田園風景が続いているのも心地良い。

東は春日、高円と続く東山中。西は生駒、金剛山脈。南は吉野の山々と、奈良は盆地であることがよくわかる。はるかかなたには、うすすらとひときわ高い山の脈(なみ)。あの凹凸は大峰山の山が岳だ。六〇歳前、二度にわたって大峰参りを経験したので山上が岳の起伏はよくわかっている。

街道は、能登川、岩井川、菩提仙川、布留川を順々に渡る。どの川も沢音が心地よい。二時間弱で橿本着。あぜ道に座り込んでワンマン電車撮影のシャッターチャンス待ちながらおにぎりやおぼろ、お湯割りをちびりちびり。二〇分ほどして、運よく電車通過、再出発。



万葉まほろば線 シャッターチャンス待ちわびて撮った1枚

巻向まではあと九キロ。もう半分歩いてきた。ところが丹波市(たんばいち)の市街地を抜けたところで足が痠痛。琵琶湖ウォークの草津川土手と同じで痛くて歩けない。しかし経験がもたらす効果で、座りこんでポカリを飲み干すため街道を離れ、国道一六九号線沿いを南下。コンビニで、ポカリ購入としばしの休憩。

佐保庄からまた上街道へ。余計に休憩した分、電車がぎりぎりになりそう。大和神社(おおやまとじんじや)で、長岳寺五智堂(重要文化財)も素通り。連れ合いの実家に近いおなじみの柳本駅前通りを越え、かなりの急ぎ足で巻向駅へ。ぎりぎりで電車に間にあった。良かった。

良かったと思ったのも束の間、桜井に到着してビタパ入れを落とし、しまったことに気付く。しまった!

また、巻向駅に引き返し。あちこち探すとトイレ入り口付近で無事発見。巻向は無人駅でどうなるかと思っただが、乗降客が少ないのが幸いした。やれやれ一安心。安心すると急に空腹を感じ、電車待ちの間におにぎり一個と缶ビールを一缶。おいしかった。ホーム待合室からよく見ると駅のすぐ

北西部は有名な巻向遺跡だ。見学に行きたかったが、そうすると電車に間に合わないのであきらめた。巻向から桜井、桜井から近鉄電車乗り継ぎ、予定より一時間遅れて無事帰宅した。

◎纏向遺跡(まきむこういせき) 桜井市域の北部、JR巻向駅周辺にひろがる纏向遺跡は、初期ヤマト政権発祥の地として、あるいは西の九州の諸遺跡群に対する邪馬台国東の候補地として全国的にも著名な遺跡です。この遺跡は広大な面積を有する事や、他地域からの搬入土器の出土比率が全体の一五%前後を占め、かつその範囲が九州から関東にいたる広範囲な地域からである事、箸墓古墳を代表として、纏向石塚古墳・矢塚古墳・勝山古墳・東田大塚古墳・ホケノ山古墳・南飛塚古墳、前方後方墳であるメクリ一号墳などの発見、農耕具が殆ど出土せず、土木工事用具が圧倒的に多い事、他の一般集落的な集落とは異なる点が多くなる。鎌倉時代の建築として、明治四一年、重要文化財として国の指定を受けている。この種の建物は珍しく、江戸時代の好事家木村兼殿堂けんかどこと「雲綿随筆」のうちに傘堂のことを書いています。今はないが、江戸時代には床が張ってあって旅人の休息所になっていたようである。この付近は柳本の名の起った所で、古い立派な寺のあったところであるから、宝塔の古材によって組み立てられたことも考えられる。いずれにしても珍しい建物である。(天理市より)

◎大和神社(おおやまとじんじや) 日本大和国魂大和神(やまとのかみ)の御宇(みよ)は大地主大神(おおとこぬしのおおかみ)である。高円山(たかねのやま)の山頂に大和神社(おおやまとじんじや)の本宮(ほんみや)がある。大和神社(おおやまとじんじや)の御宇(みよ)は大地主大神(おおとこぬしのおおかみ)である。高円山(たかねのやま)の山頂に大和神社(おおやまとじんじや)の本宮(ほんみや)がある。



纏向遺跡



大和神社参道

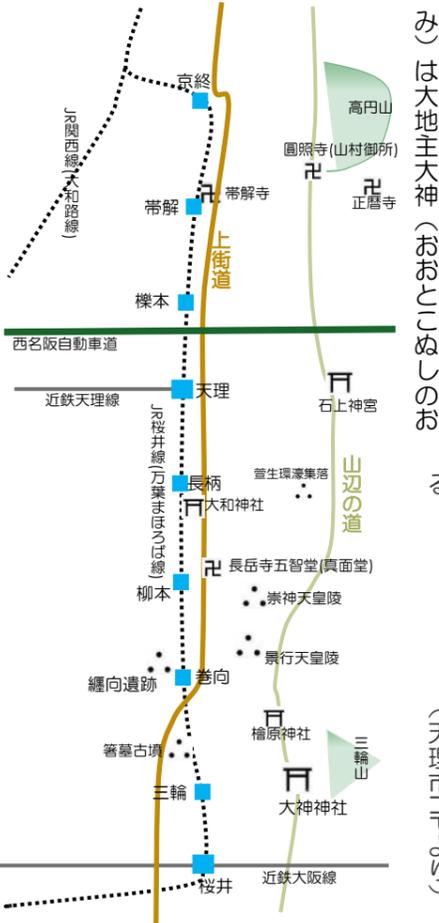
おかみ)で、宮中内に天照大神と同殿共床で奉斎されたが、第十代崇神天皇六年に天皇が神威をおそれ、天照大神を皇女豊鋤入姫命をして倭の笠縫(かさぬい)に移されたとき、皇女淳名城入姫命(ぬなきいりひめ)に勅して、市磯(いちいそ)に(大和郷)に移されたのが当神社の創建であると伝えられている。(二〇〇〇余年前)奈良時代、朝廷の命により、唐の国へ渡って学ぶ遣唐使、その他使臣は、出発に際して、当社へ参詣し、交通安全を祈願された。

◎長岳寺五智堂(真面堂)



長岳寺五智堂(真面堂) ~重要文化財~

長岳寺の西方約八五〇m 境外地、上街道近くに五智堂が立っている。構造は方一間、単層屋根宝形本瓦葺(たんそうやねぼうぎようほんわらびき)である。奈良朝の頃、善無畏(ぜんむい)三藏という人が創建したと伝えられている。どこから見ても正面なので真面堂とも、支柱を除けば四方吹放しとなるから傘堂とも呼ばれ、形が小さいのでマメ堂ともよばれている。中央の太い心柱の上方に五智如来をまつている。鎌倉時代の建築として、明治四一年、重要文化財として国の指定を受けている。この種の建物は珍しく、江戸時代の好事家木村兼殿堂けんかどこと「雲綿随筆」のうちに傘堂のことを書いています。今はないが、江戸時代には床が張ってあって旅人の休息所になっていたようである。この付近は柳本の名の起った所で、古い立派な寺のあったところであるから、宝塔の古材によって組み立てられたことも考えられる。いずれにしても珍しい建物である。(天理市より)



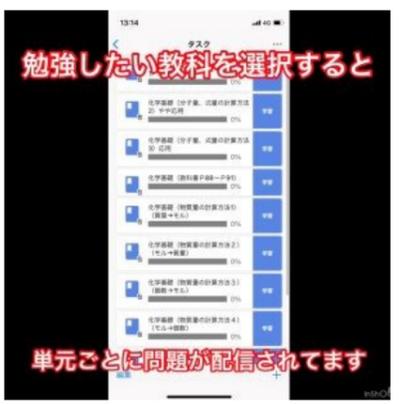


写真①

東大阪大学柏原高等学校 タブレットを活用した教育活動



写真④



写真③



写真②

東大阪大学柏原高等学校では、今年度より一人一台のタブレット端末を活用し、「〇」を取り入れた教育活動に取り組んでいます。今回は、その様子の一端を紹介いたします。

本校では、自学自習する習慣を身につけられるように学習支援アプリ「Monoxer」を使って指導しています。(写真①)

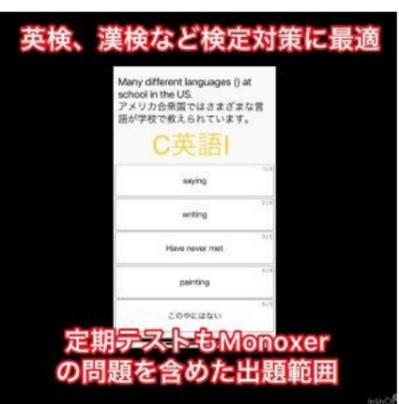
まず、アプリを開くと各自のコースで学習している科目が表示され、その中から勉強したい教科を選択します。(写真②)

次に、勉強したい教科を選択すると、単元ごとに問題が配信されます。(写真③)

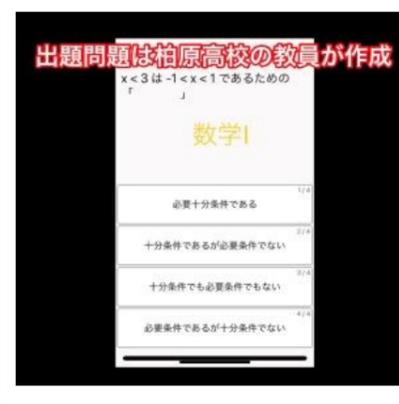
各教科の問題は、ほとんど選択制で予習復習に最適です。習ったことがどれほど理解できているか自分で把握でき、また、これから学習することを前もって学



写真⑦



写真⑥



写真⑤

習することにより、授業に興味と関心があり、学習内容の理解、定着が促進されます。(写真④)

一方、配信される問題は、柏原高校の教員が作成しています。(写真⑤) 定期考査の出題範囲は、「Monoxer」掲載の問題も含めた内容となっています。

本校では資格取得のために取り組んでいる「英語検定」「漢字検定」等の検定対策にも最適で、これまでに以上の学習効果が期待できます。(写真⑥)

生徒の回答結果はコンピュータで管理し、各人の結果から各単元の理解度(習熟度)に合わせ出題が変わります。生徒一人ひとりに応じた最適な学習を提供することができると考えています。(写真⑦)

本アプリを使った学習は、学校でも自宅でもインターネットに接続することで学習でき、日々学習習慣を身につけてい



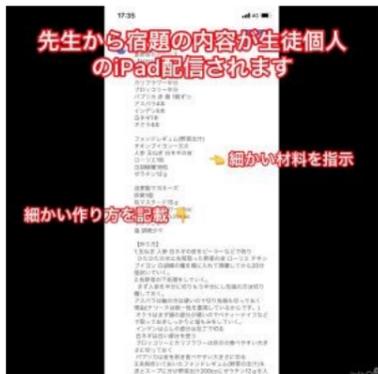
「Zoom」を活用したリモート授業にも取り組んでいます。



「Google classroom」を使って課題も提出しています。(写真⑧)

これは、夏季休業期間の調理コースの課題ですが、教科担任から課題の内容(題材、必要とする材料、作り方の詳細等)、出題期限を生徒個人のタブレットに配信されます。その中には、先生からのアドバイスも入っており、家庭で生徒が実践できるように細かく指導します。課題提出は、各自調理した課題作品の写真を撮り、家庭から添付ファイルとして送信提出します。

その他、課題を調べたり、発表したり、



写真⑨



写真⑧

くことができます。

「あんしん」のたわごと⑩ 愚感(教育は、サービス業) ～ きめこまかさ、めんどろみがよいとは ～

愚感(教育は、サービス業) (きめこまかさ、めんどろみがよいとは) (川口マーン恵美)

日本ではこれまで、高度で細かいサービスが発達した背景には、「職業に貴賤なし」の精神がある。そもそも日本では、サービス業が社会での階級として固定しているわけではない。今日サービスを受けている人も、明日反対にサービスを受けることができてくるというのが日本の常識で、いわば世界でもまれにみる公平で健康的な社会構造だ。また、接客業は賤しいなどという偏見がないから、まともな人材も集まるのだろう。宅配の配達員は、皆きびきびしいで礼儀正しきびしい。ドイツでいえばこのまま押し入れられたらどうしようと思ってしまうような強盗面がやってくるのと大違いだ。

さて、こう言ったサービス業のあるべき姿を全くと言ってよいほど理解しないのがドイツ人でありヨーロッパ人だ。例えば、日本では「スーツケースを自宅から空港まで届けてもらえる」と話すと、「スーツケースを運ばせるなんて傲慢だ。これは搾取ではないか。私はそんなことはできない。」と穿った人道主義に走る人もいる。ピントがはずれている。大体、サービス業をまっとうな職業とみなすなら、それが搾取と映るわけがない。これは、裏返せば彼らがサービス業に従事している人を見下している何よりの証拠である。日本という無階級社会で暮らしていると想像がつかないと思うが、ドイツ・ヨーロッパは、未だ階級社会なのである。

これは、夏季休業期間の調理コースの課題ですが、教科担任から課題の内容(題材、必要とする材料、作り方の詳細等)、出題期限を生徒個人のタブレットに配信されます。その中には、先生からのアドバイスも入っており、家庭で生徒が実践できるように細かく指導します。課題提出は、各自調理した課題作品の写真を撮り、家庭から添付ファイルとして送信提出します。

その他、課題を調べたり、発表したり、

サービス業の醍醐味は心地よい接客だけではない。日本で生産されている商品は、使う人がより快適に使えるようにという目標に向かって永遠に改善されていく。

例えば、日本ではサンラップやセロハンテープの切り口が剥がれなくてイライラすることがない。また、小さなワサビの袋も大きなお菓子のポリ袋も、ちゃんと切り口があり、わざわざハサミを取りに立ったり、噛み切ったりしない。ペットボトルに被っているラベルは、マジックのように簡単に取れる。日本人にとっては些細で当たり前のことかもしれないが、これが世界中で当たり前前なわけではない。技術なら、日本とドイツは互角だが、日本の商品には使う人への思いやりが最大限に加味されている。日本は安価な労働力や大量生産で生きていける国ではない。もちろん売り食いでできる天然資源もない。だから一流のハイテク製品を生産し、高価なノウハウを売るしかない。これしか生きる道はない。もっとも、そこまではドイツも同じだ。しかし、そこから違う。ハイテクというハードウェアに心遣いというソフトウェアをのせた商品を作れるのは、おそらく私たち日本人しかない。

(故岡崎安伸先生の遺稿より)

Murakamigakuen Art Gallery (11)



東大阪大学柏原高等学校
美術コース

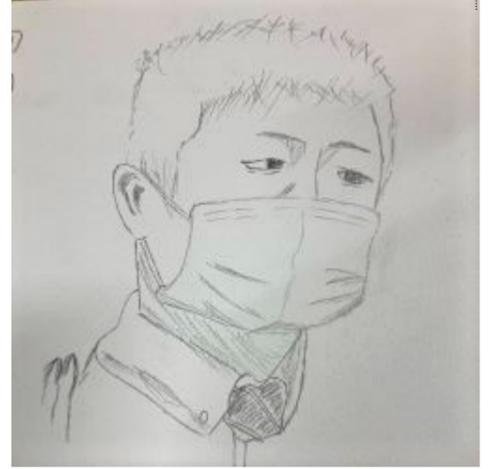
今号の「Murakamigakuen Art Gallery」は、これまでも作品を数々取り上げてきましたが、平成31年4月開設した美術コースでの授業を中心とした教育活動の様子と作品を取り上げてみました。今年度、第1期生が第3学年となり、来年3月には卒業を迎えます。現在、進学等、各自の進路に向けて努力しているところかと思いますが、担任の先生に第1期生の進路状況を伺いますと、コース生全員が、芸術系の大学や専門学校へ進学すること。特に、近隣に位置し体験学習やで出前授業でお世話になっている「大阪芸術大学」へは約半数の生徒が、また授業で専門的な技術等を指導していただいている「大阪総合デザイン専門学校」にも進学することになっています。美術コースで学んだことを基に進学先でも実力を開花させてほしいと思います。

三年生になった美術コース一期生の声掛けから、アニメーションの制作が始まりました。美術コースになる前の先輩方から引き継いで少しずつ進んできたこの作品。今日は動画班、背景班、設定班に分かれ作業しました。



「10分クロッキー」：4人1班、各班1人ずつモデルになり10分間で、そのモデルを描く「10分クロッキー」に取り組んでいます。見る人が見れば誰か分かるかな？特徴をつかみながら10分間という短時間で描き上げることができるようになってきました。紙面の都合で6点に絞りました。

午前中、自分の作品を描き、午後は水彩をしました。同じものを同じ画材で描いても個性が出てそれぞれ違う味わいの作品になっています。金曜日は、自分に一番必要と思う実習を行っています。紹介するのはデッサン。デッサンは現実の形や質感、空間を観察し、絵にする技術を身に付ける方法の一つです。有用性に気づいた生徒たちが熱心に制作し、順調に画力を向上させています。



★編集後記(日々雑感)

わたしが両手をひろげても
お空はちっともとへないが
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない
わたしがからだをゆすっても
きれいな音は出ないけど
あの鳴るはずはわたしのよう
たくさんうたは知らないよ
ずっと、小鳥と、それからわたし
みんなちがって、みんないい

これは、大正時代の童謡詩人「金子みすゞ」さんの詩で、小学校国語三年上「わかば」(光村図書)に掲載されている「わたしと小鳥とすずと」〜みんなちがってみんないい〜です。

村上学園に入園・入学した園児・生徒・学生。勉強の得意な人苦手な人、運動の好きな人得意な人、人付き合いの上手な人うまくない人、障害のある人ない人、日本人はじめ多様な国籍の人達等様々な違いのある人達が集う村上学園。それぞれの違いに気づき、認め合い、他者を気遣える学園、インクルーシブな教育を実践できる学園でありたい。それが学園訓(「万物感謝」「質実勤労」「自己敬愛」)の具現化では……。



(編集者 寺川誠)

みんないい。

